



FMB (ファーストミッションボックス)
 使い方を動画で確認できます

🔍 ホームページID
 17544

自分や家族の身は自分たちで守る「自助」、国や県、市などの行政機関や公的機関による「公助」の他に、隣近所や地域の人たちがお互いに協力し助け合う「共助」があります。

行政、消防、警察、自衛隊の職員数、装備にも限界があります。特に南海トラフ地震で想定されているような大規模で広域にわたる災害の場合、十分な救助、救済活動や支援が受けられない可能性があります。

まずは自分や家族を守るようにしっかりと備えることが大切ですが、大きな災害が起こると、自分や家族だけではできないことがあります。そのため隣近所の人との助け合いが欠かせません。助け合いについても、準備が必要です。具体的にどんな助け合いが必要になるのか、紹介します。

必要になる災害時の助け合い できることから備えを

問 防災課防災計画係 ☎95-9874



みんなで声を掛け合って避難

避難を呼びかける避難情報（警戒レベル3高齢者等避難、警戒レベル4避難指示）が市から発信されたら、隣近所に声を掛け合い避難しましょう。避難は個人の判断ですが、声を掛け合うことで、避難をためらう人や、どうしたらよいか分からず固まってしまう人を動かすことにつながります。

さらに、過去の震災では火災が発生し、その多くが傷んだ配線や倒れた電気ストープなどに電気が通ったことで発生する通電火災でした。避難時には必ずブレーカーを落とし、隣近所で声を掛け合い確認して、通電火災を防ぎましょう。

また、安全な場所に避難するため、浸水想定をハザードマップで事前に確認し、伊勢・三河湾に津波警報が出たら、避難指示を待たずに速やかに避難を始めてください。津波からの避難は徒歩が原則です。日頃からどの道を通って、どこに避難するかを地域で決めておくとい

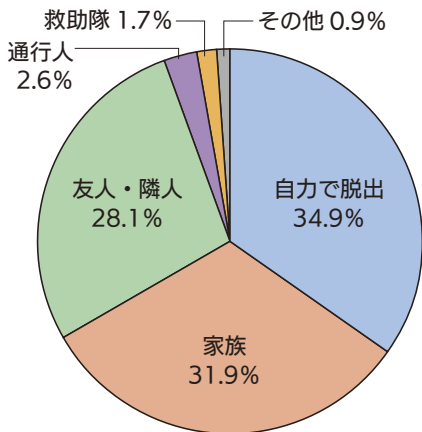


避難できたら

避難が完了し、自分たちの安全を確保したら安否確認をしましょう。隣近所で安否確認の仕組みを作ることをおすすめします。「身動きがとれなくなっても隣近所が気付いて、助けてもらえる」「仕組みがあると周りの人に助けを求めやすい」などの効果が期待できます。例えば、回覧板を回す班の中で安否確認をして、その結果を自主防災会に報告するなど考えられます。

また、避難中に閉じ込められた人やけがをした人に遭遇するかもしれない。大規模災害発生時には、消防・警察・自衛隊による救助は受けられない可能性があります。防災備蓄倉庫の資機材などを使って閉じ込められた人の救出や負傷者の応急手当てを行います。できるところから地域の防災訓練に救助や救護の訓練を取り入れてみましょう。消防団経験者は積極的に協力をお願いします。

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等



出典：平成26年版防災白書（内閣府）
標本調査：財団法人日本火災学会（1996）
「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」参照

避難所はみんなで運営

南海トラフ地震のような大規模災害発生時には職員が避難所に駆け付けられない可能性があります。市では、避難者が自ら避難所を開設できるように手順をまとめたファーストミッションボックスを市内35の避難所に設置し、地区の訓練で使用しています。災害発生時には、3人そろったらファーストミッションボックスを開けて、指示書に書かれたミッションを行ってください。

避難所が設置できたからといって終わりではありません。しばらくの間避難所で生活しなければならぬかも知れないのです。避難所内の生活は、避難者による運営（自治）が必要です。



1. 救助や炊き出しなどに役立つ資材が入っている防災備蓄倉庫



1



2

2. 市内2,000箇所にもあり非常時には誰でも使える街頭消火器

助け合いのための自主防災会

自主防災会は「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的とする組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行っています。碧南市には38の自主防災会があり、年に数回防災訓練を行っています。また、防災備蓄倉庫の管理や街頭消火器の点検を行い、各地域を災害から守る活動をしています。

自主防災会の役員は1年で交代するところが多く、新しいことに取り組みには大きな負担が伴います。地域の中で、防災活動に計画的、継続的に取り組める人や体制を育てていく必要があります。住んでいる地域の自主防災会の活動には積極的に参加しましょう。